

濱淵(鳴門)逃げ切り連覇



通算1オーバーで2連覇し、同組で回った木村(右)から祝福される濱淵=鳴門カントリークラブ

最終成績 (10位まで)

- ①濱淵 裕生(鳴門)+1 145(71.74=35.39)
- ②奥山慎一郎(鳴門)+4 148(72.76=36.40)
- ③柳田 英記(御所)+5 149(72.77=41.36)
- ④木村 剛志(グラン)+7 151(72.79=40.39)
- ⑤小泉 勝也(鳴門)+10 154(79.75=40.35)
- ⑥藤原 和樹(レオマ)+11 155(77.78=41.37)
- ⑦谷一 浩史(阿南) 155(76.79=40.39)
- ⑧稲岡 拓郎(月の宮) 155(76.79=38.41)
- ⑨千原 喜清(鳴門)+12 156(79.77=39.38)
- ⑩望月 徳久(鳴門) 156(78.78=42.36)

(グランはグランティ)

2位奥山(鳴門) 3位柳田(御所)

は昨日、鳴門市の鳴門カントリークラブ(6275坪)で行われた。高校生の2連覇は2020年の多田旺生(上板中・四学大香川西高)以来2人目。

勝負どころでバーディー 濱淵

2位に4打リードで迎えた最終18番パー5は、観客が見守るグリーン周りではたつてしまい、ボギーフィニッシュ。短いウイニングパットを沈めて濱淵(鳴門)は照れ笑いを浮かべた。「決して納得できる内容ではなかったと言いつつも、地元での2連覇達成は嬉しかった。2位に勝つことは、2位に勝つこと。左からの向か

い風にドライバースョットを放ち、300ヤ先のフェアウェイ中央に落とす。セカンドでレンソが1打に寄せ、心臓が鳴った。決めれば勝利はほぼ確実。外は荒れを失う。普段なら向てもない距離に飛ばした。初優勝した前回は、先行する鹿嶋からリズムを崩してプレー

2日間通算1オーバーの145で2連覇を果たした。高校生の2連覇は2020年の多田旺生(上板中・四学大香川西高)以来2人目。

悪天候で競技開始が1時間半ほど遅れた中、2位に1打差でスタートした濱淵は前半アウトを1アンダーで折り返した。後半インは12番パー4で

所が149で3位、木村剛志(グランティ)が151で4位となった。ただ一人の小学生選手として参加した生田小5年の田岡凌叶(四国)は166で44位となり、次回県アマ選手権の出場資格が得られる60位タイ(歴代優勝者を除く)までに入った。

ただ、12番パー4でダブルボギーをたたき、アウトにこぼす。平らなフットラインをカップ裏の中に強気でおし込み、バーディーを奪った。2月からライバのフォーム改善に取り組んできた。最近になりヘッドが走るようになり、飛距離は10、15ヤード伸びた。今大会も好ショットで試合を有利に進

0の24位でラウンドし、中学生唯一、出場権を得た。ただ一人の小学生選手として参加した生田小5年の田岡凌叶(四国)は166で44位となり、次回県アマ選手権の出場資格が得られる60位タイ(歴代優勝者を除く)までに入った。

①濱淵	145	②奥山	148	③柳田	149	④木村	151	⑤小泉	154	⑥藤原	155	⑦谷一	155	⑧稲岡	155	⑨千原	156	⑩望月	156
⑪小野	158	⑫小野	158	⑬小野	158	⑭小野	158	⑮小野	158	⑯小野	158	⑰小野	158	⑱小野	158	⑲小野	158	⑳小野	158